

癌化学療法輸液約束処方 胃22

周術期投与期間要注意

癌種 胃癌 再発・切除不能（通院外来用）
 レジメン名 胃22 XELOX（血管痛対策用）

薬品名（商品名）	一般名	略号	標準投与量	投与方法	投与経路	投与日	1コースの期間
エルプラット	オキサリプラチン	L-OHP	130mg/m ²	120分	末梢	DAY 1	21日間
カペシタビン	カペシタビン	CAP	1日用量 2000mg /m ²	分2 朝夕食後	PO	DAY 1(夕)～15(朝) または DAY1(朝)～14(夕)	

※実施決定後より内服開始

DAY 1

【末梢】

- ① 5%Tz 50ml + デキサート 0.5V / 5分
- ② 5%Tz 50ml + グラニセトロン 1A / 5分
- ③ 5%Tz 250ml + エルプラット mg + デキサート 0.5V / 120分
- ④ 5%Tz 50ml / 15分

【備考】

- ① 切除不能・再発胃癌に対して XELOX療法とSOX療法の第Ⅱ相試験が韓国にて行われ、同等の治療成績が報告されている。
 （L-OHPの投与量はどちらも 130mg/m²）
- ② 血管痛対策のため、オキサリプラチンにデキサメタゾンを混注したレジメン
- ③ 術後補助化学療法は8コース目まで

【投与開始基準】

- ① 好中球: 1500/mm³以上
- ② 血小板: 7.5万/mm³以上
- ③ 38℃以上の発熱を認めない
- ④ 感覚性神経障害: G2以下
- ⑤ 非血液毒性: G1以下

【L-OHPの減量基準】

- ① 好中球: 1000/mm³未満
- ② 血小板: 5万/mm³未満
- ③ 発熱性好中球減少症: G3 以上
- ④ 非血液毒性: G3以上
- ⑤ 感覚神経障害: コースを超えて継続するG2
7日以上継続するG3
 （コースを超えて継続するG3の場合は中止）

【カペシタビンの減量基準】

- 好中球 1000未満
 血小板数 5万未満
 発熱性好中球減少症: G3 以上
 HFS G2 以上
 （G1に回復するまで休薬し、減量して投与開始）

H29.6.16 作成
 R5.9.11 改訂